

## 高潮発生仕組みと被害を受けやすい場所

## ①気圧低下による海面の吸い上げ

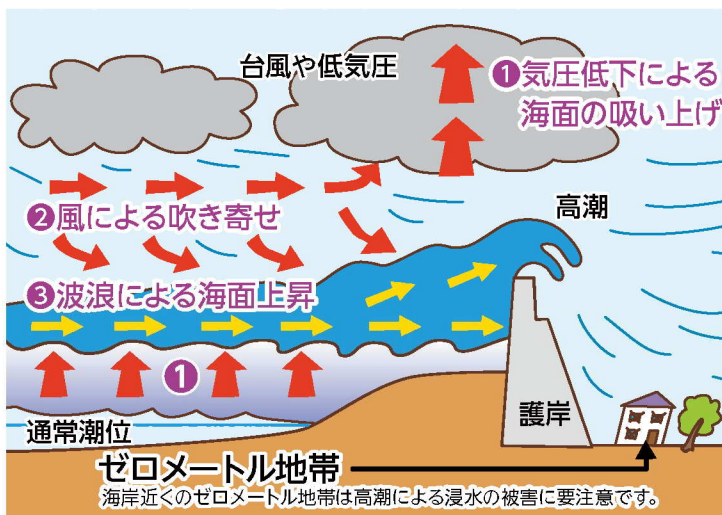
台風や低気圧の中心気圧は周辺より低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げる結果、海面が上昇します。

## ②風による岸への吹き寄せ

台風による強い風が海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられて、海岸付近の海面が異常に上昇します。

## ③波浪による海面上昇

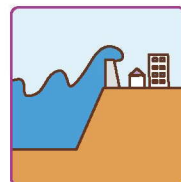
大きな波が海岸に向かって絶え間なく押し寄せると、沖に急速に戻る事ができず、岸に近い場所に多量の海水がたまるようになり、海面が上昇します。波が大きいほど、海面の上昇も大きくなります。



◀湾の奥  
押し寄せた海水がたまり、湾内の水位が上がる。



◀河口のまわり  
高潮の被害と河川の氾濫など、危険が重なる。



◀急に深くなる海底地形  
押し寄せた波が海岸の近くで一気に高くなる。

## 避難のポイント(高潮)

## 気象情報に注意

台風接近の数日前から、気象情報や町からの防災情報に注意しましょう。



## 早めの避難

昼間に台風の強風域が近づいている場合や、夜間から明け方にかけて台風の強風域が最接近すると予想される場合は、町から早めの避難を呼びかけます。



## 海沿いへ様子を見に行かない

高波にのみ込まれるおそれがあります。



## ひとまず丈夫な高い建物などに避難

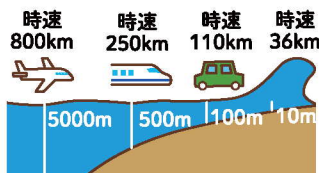
水深が膝の高さを超えたら、大人でも歩くのが困難になります。  
ひとまず近くの丈夫な高い建物などに避難しましょう。



## 津波の特徴

## ジェット機並みの速さ

津波の速さは海が深いほど速く、津波が見えてからでは逃げ切ることができません。



## 想像以上の高さ

津波の高さは海岸の地形等で変わります。東日本大震災では、想像以上の高さの津波が発生しました。



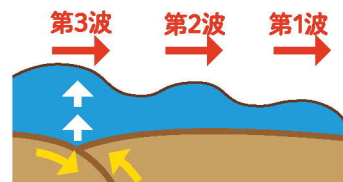
## 予兆もなく襲ってくる

必ずしも、津波の前に引き潮(予兆)があるとは限りません。



## 津波は繰り返す

津波は繰り返しくるので、警報や注意報が解除されるまで沿岸部に近づかないでください。



## 避難のポイント(津波)

## 小さな揺れでも油断禁物!

小さな揺れの地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が襲来することがあります。



## 高い場所へ避難

海岸から「より遠くへ」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



海拔表示板を目安により高いところを目指してください。

## 海岸や川には近づかない!

海岸はもちろん、津波は陸地よりも先に川をさかのぼりますので、できるだけ川に近づかず避難しましょう。



## 率先避難者になりましょう

率先避難とは「緊急時に周囲へ避難を呼びかけつつ、自ら率先して避難すること」を言います。率先避難者になることで、それを見ている周囲の人に避難行動を取らせるきっかけになります。

